

71回目の終戦記念日

終戦から71年を迎えて

この国は何処へ向かうのか

8月15日、今年も終戦の日を迎えました。終戦から71年たって日本が大きく変わろうとしています。日本武道館において政府主催で行の全国戦没者追悼式で今年も安倍首相から「反省」と「アジアへの加害」の言葉はありませんでした。安全保障関連法の本格的運用を目の前にして平和を武力で維持する前時代的な姿勢が見えてきます。

先の大戦は何だったのか反省もせずに、同じ過ちを繰り返そうとしています。参議院選挙で自民党の大勝により改憲議論が加速され、堂々と武力行使がなされようとしています。

自衛官になるという選択肢

最近「自衛官になるという選択肢」というメッセージと共に自衛官募集のCMが頻繁に流れています。今風の若者がいきなり家族団らんの中で突然家族に向け自衛官になると言い放ち、母親がにこにこしてうなづくシーン、最後に『その気持ちがこの国を守る』と締めくくられます。ニュースもまず尖閣、竹島関連のニュースが最初に流され、国民の国防意識不安をあおっています。いまオリンピック中継に合わせるかのようなメディアの姿勢に、戦争前夜のような気配すら感じられます。

犠牲というなら加害は誰

安倍首相は追悼式で、「尊い犠牲の上で今の平和がある」と述べています。この時期こぞ靖国神社へ参拝する国会議員も同じ言葉を口にします。

誰が誰によって犠牲を強いられたのでしょうか、国家という大きな権力に流され、多くの国民は、やもなく戦地に送られ人を殺し、殺されました。特に近代戦では軍隊の専門職でなく一般の人たちが徴集され、軍隊に組織され命を落としました。

ヒトラーは突然現れたわけではない

第二次世界大戦はドイツのポーランド侵攻からはじまり、ヨーロッパ全土に拡がりやがて日本も加わり、太平洋戦争へと地球全体が戦場となりました。ドイツは第一次世界大戦後、深刻な経済危機抱えていたところに、米国からはじまった恐慌に巻き込まれ、国全体が疲弊し、国民の間で不平不満が渦巻いていました。経済を立て直す等わかりやすい言葉で国民の熱狂的な支持の上、登場したのがヒトラーでした。最初から強権的な独裁者、として現れたわけではありません。正当な選挙で民主的に選ばれたのです。

経済が低迷している現在、ともするとわかりやすく、大衆受けする人物が登場してきます。終戦から71年を迎えたいま日本の国が大きく変わろうとしています。

いまこの国がどこに行こうとしているのか考える時です

「戦争が廊下の奥に立っていた」 渡邊白泉